

(様式 2 - 1 小・中学校用)

平成 29 年度埼玉県
「いじめ防止のための望ましい人間関係づくり」
研究推進校実践報告書

1 学校の概要

- | | |
|----------------------------|-----------|
| (1) 学校名 | 寄居町立男衾小学校 |
| (2) 学級数 (平成 29 年 5 月 1 日付) | 15 学級 |
| (3) 児童生徒数 (同上) | 427 名 |
| (4) 教職員数 (同上) | 23 名 |

2 実践研究の概要について

(1) 問題提起 (問題の明確化、主題の決定)

ア 研究仮主題

「認め合い、学び合う授業の創造」

イ 研究仮主題の設定理由

本校の学校教育目標は「真の学ぶ力を身につけたくましく生きる児童の育成 よく学び 進んで働く 健康な子」である。その学校教育目標を基に、今年度は算数を中心に研究を進めている。お互いに認め合う学級づくりをする中で、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れ、認め合い、学び合う授業を展開し、基礎基本の確実な習得や思考力・判断力・表現力の育成を図っている。

児童同士は仲が良い反面、相手に対して失礼なことや嫌だと思ふようなことを平気でやってしまい、トラブルとなることがしばしば見られる。また、悪口や相手を傷つける言葉を言った、言われたという経験がよくある。月末に実施している「いじめアンケート」では、児童からの訴えがあると、その都度、担任や学年主任、生徒指導主任や主幹教諭が指導を行い、解決できるように働きかけている。

今年度は教科指導、道徳指導、特別活動の 3 本柱で児童の心を育成し、いじめ防止のための望ましい人間関係づくりを実践したいと考えた。そのために、各クラスにおいては、お互いを認め合う学級づくりをすることで、自分の意見を言いやすい雰囲気をつくっていく。また、教科指導では、児童一人一人が自分の意見を持ち、お互いにその意見を伝え合い認め合うことができるようになる時間 (なかまタイム) を設定し学び合いをすることで、児童の自尊感情を高めていきたい。

以上のことをもとに、研究主題を設定した。

(2) 実態把握 (調査実施、集計、整理)

ア 児童アンケートの実施

●授業アンケートより

本校は前述の通り、算数を中心に学校研究を進めている。その中で、学び合い認め合う授業の展開を図り、児童同士の関係づくりや自尊感情を高めることを目指している。授業アンケートでも、授業中の児童同士の関係が見られるような項目を設定し、

集計した。

第1回	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(%)
1) 友達が自分の考えをよく聴いてくれていると思いますか。	73.2	88.9	93.4	73.1	88.9	88.9	84.6
2) 分からない時にすぐに友達に聞けますか。	80.3	68.3	67.1	67.2	83.3	90.3	76.2
3) 友達の意見のいい所を見つけようとしていますか。	78.9	92.1	92.1	83.6	86.1	88.9	86.9

イ いじめ認知件数について

●生徒指導報告いじめ認知件数より

平成28年度・・・71件（平成28年12月現在）

平成29年度・・・18件（7月現在）

(3) 仮説の決定

ア 仮説1

お互いが認め合う学級づくりをすることで、自分の意見を言いやすい雰囲気をつくることができるであろう。

仮説2

なかまタイムを取り入れることで、より効果的にお互いの考えを伝え合うことができ、児童の自尊感情を高めることができるであろう。

(4) 実践（本実践、データ収集、事前・事後調査）

ア 教科指導

(1) 算数科の学習における人間関係づくりの実践

・算数科の学習での「なかまタイム」の導入

本校の課題研究の中心である「なかまタイム」とは、授業中に少人数グループで話し合いをもち、意見を交換することである。なかまタイムを実施するために、まずは自分の意見をしっかりと考える時間を確保した。また、なかまタイムでは、順番を決めて発表するだけでなく、話し合った意見から自由に答えを導き出したり、新たな考えを出したりする場とした。

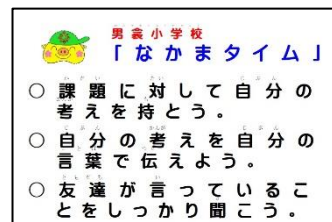
また、「なかまタイムのルール」を決めた。

「①課題に対して自分の考えを持とう。」

「②自分の考えを自分の言葉で伝えよう。」

「③友達が言っていることをしっかり聞こう。」

以上の3項目を「なかまタイム」を行う上で児童に指導し実践できるよう、各教室に掲示した。



・算数の学習の進め方の統一

算数の1単位時間の流れを見童にも把握させ、見通しをもって学習に取り組ませた。また、学習の流れを以下の通りに決め、教室に掲示して見童がいつでも見られるようにした。

①見通し

★聞いていることは？★分かっていることは？

★答えはどうなりそうかな？（予想）★課題は何だろう？

②学び合い

○解く ○くらべる（はかせ） ○深める

③まとめ

★今日勉強して分かったことをまとめよう。

★算数の言葉を使いましょう。

★課題に対する答えになっているかな？

★練習問題をやってみよう。

④振り返り

★今日の授業は自分にとってどうでしたか？

★「わたし（ぼく）は、」から書き始めよう。

教室に掲示し学習の流れを把握できることで、見童が次に何をすべきかを考えることができ、自信をもって学習に取り組めるようになった。



(2) 教職員の研修

なかまタイムの実施に向けて、教職員の指導技術と意識の向上を図るために、校内研修を行った。

① 6月29日 校内授業研究会

寄居町教育委員会 教育指導課課長 富田陽一先生を指導者にお迎えした。板書計画や算数ノートの作成の仕方等についての指導があり、授業の進め方を共有することができた。

② 8月21日 校内授業研究会

熊谷市教育委員会 指導主事 中里こず恵先生を指導者にお迎えした。新学習指導要領の変更点を中心に、授業の展開についての指導があり、学習の進め方について共通理解を図ることができた。

③ 8月21日 校内授業研究会

深谷市教育委員会 指導主事 染谷明信先生を指導者にお迎えした。算数ノートの作成の仕方を中心に、問題、課題、自力解決、まとめ、振り返りの学習の流れについて研修を行った。

④ 8月24日 校内授業研究会

北部教育事務所 指導主事 中原裕先生を指導者にお迎えした。道徳の読み物教材をもとに、「いじめに正面から向き合う考え、議論する道徳」についての指導があり、道徳の教科化に向けての変更点や「考える道徳」「議論する道徳」の実践について、いじめ防止に向けた道徳の在り方についてなど研修を行った。

⑤ 8月28日 校内研修会（教育相談事例報告）

本校の教育相談主任による教育相談についての研修会を、「一人一人が認められ互いに支え合う温かな人間関係づくりのために」と題して行った。ロールプレイングを通して、実際に子供たちがどのように感じるのかを改めて考え、教師自身の姿勢や態度を見直すきっかけとなった。

⑥ 8月28日 校内研修会（いじめ防止）

本校の生徒指導主任によるいじめ防止に向けた研修会を、「いじめの問題に関する現状と課題」と題して行った。いじめ防止対策推進法の理解、いじめの未然防止、いじめ重大事案に対応する方法等、いじめ問題に教職員全員で取り組んで行くための研修会となった。



イ 道徳指導

（1）全校一斉道徳の時間の設定

水曜日の3校時を、全クラスで道徳の時間に設定した。全校で一斉に取り組むことにより、道徳の時間を確保し児童の豊かな心を育成することができた。

（2）担外による TT の授業の実践

全校一斉道徳の時間に、担任外の先生が計画的に学級に入り、TTの授業を展開した。児童に多くの教師の生き方に触れたり多様な見方考え方を感得させたりすること、児童の意見を多く拾い上げることで児童の自尊感情を高めること、授業のパターン化を防ぎ活性化を図ることを目的とした。実際の授業において、担任外の先生が意見を拾い上げ、よい意見を述べた児童をたくさん誉めることができた。また、担任外の先生の話聞くことにより、児童に多くの見方や考え方に触れさせることができた。



（3）学校公開日に道徳の授業の公開

10月26日（木）の学校公開日に、全学級で道徳の授業を行った。事前にどの内容項目でどの読み物教材を学習するのかを計画し、保護者に伝えた。また、保護者には授業を参観した感想を書くことができる用紙を配布しておき、後日提出していただいた。保護者からは、「子供と今日の授業について話し合うことができた。」「道徳でどんな学習が行われているのか、よく分かった。」などの意見が出た。保護者の方々に、道徳教育についての理解や関心を高めていただき、家庭と連携した道徳教育を進めた。

（4）教科化に向けた年間指導計画の作成

道徳部を中心に、来年度の道徳の教科化に向けた年間指導計画の見直しを図った。「友情・信頼」や「生命尊重」などの内容項目を中心に、いじめ防止に関

わる読み物教材を多く取り入れた計画を立てた。

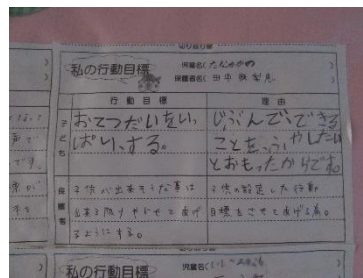
(5) 道徳通信「道トーク」の配布

学校では道徳教育について、どのように考えているのか、何を重点としているのかなどの情報提供の場として、道徳通信を発行した。題名を「道トーク」とし、保護者や地域の方々に道徳教育についての理解や関心を高めていただいたり、家庭と連携した道徳教育を推進したりするために2ヶ月に1回程度発行した。内容は、学校の道徳教育の方針や計画、道徳についてのアンケート結果や、「彩の国の道徳」や「わたしたちの道徳」の活用方法など、具体的で分かりやすいものを掲載した。

(6) 私の行動目標の設定

「道徳の町・寄居」を目指した取り組みの一環として、児童生徒が社会の一員としての在り方を考え、保護者が子供たちの手本であることを再認識する機会を設けることで、子供たちの道徳性を養うとともに、学校と地域が連携して子供たちを育成するために、「私の行動目標」の設定の取り組みを行った。

児童が設定した行動目標とその理由をもとに、保護者には「子供の見本としての大人の役割」や「社会の一員としての生活の仕方」などのような行動目標を設定していただいた。また、それらを道徳コーナーに掲示し、誰でも見られるようにした。



ウ 特別活動

(1) 縦割り班の活動

毎月第2週の木曜日の業間休みを、スマイルタイムとして縦割り班で遊ぶ時間とした。遊びは6年生のリーダーを中心に決定し、それぞれが楽しく遊べるように工夫し取り組んだ。校庭をめいっぱい使って鬼ごっこをしたり、ドッジボールをしたりして、仲良く遊ぶことができた。

(2) 食育の日の縦割りウキウキランチの実施

11月10日が寄居町食育の日であり、お弁当を持ってきて食べる日となっている。それに合わせて、縦割り班のメンバーでお弁当を食べられるように計画をした。当日は、縦割り班で一緒にお弁当を食べたあと、みんなで遊んだ。感想カードには「外で他の学年の人と一緒に弁当を食べることができて、嬉しかった」「お弁当を食べて楽しく遊ぶことができた」などの感想が見られた。



(3) おぶ小スマイル祭りの実施

11月20日に「おぶ小スマイル祭り」を行った。それぞれの縦割り班が自分たちで話し合っ、遊びのお店の計画を立て、準備をして、当日の進行をした。当日は、1年生から6年生までがそれぞれ役割をもってお店の準備や運営を行ったり、遊びをする中で手を貸してあげたり励まし合ったりする姿が見られた。



(4) 男衾小なかよし宣言（いじめ撲滅宣言）の作成

12月の人権月間の取り組みとして、「男衾小なかよし宣言（いじめ撲滅宣言）」を作成した。児童会が中心となって、学校全体の「なかよし宣言」を作成し発表した。また、それをもとにして、児童一人一人がそれぞれの「なかよし宣言」の行動目標を作成し、いじめ撲滅に向けてどのように行動していきたいのか考えた。



エ その他

① 夢を育てる学校としての取組

- ・夏休みの課題の取組

自分の「夢」について書いてくることを、全校児童の共通の夏休みの課題とした。2学期に児童から集まった夢は、全て学校だよりにまとめ配布した。

- ・男衾小未来を拓く講演会の実施

現役の消防士をお迎えし、「男衾小未来を拓く講演会」を実施した。消防についての仕事の内容や仕事上大変なこと、やりがいのあることなどを紹介していただき、仕事に就く喜びや楽しさなどを聴くことができた。4学年の総合的な学習の時間「2分の1成人式」の導入として実施しているが、当日は全校児童が参加し講演を聴くことができた。



② 学校緑化の取り組み

栽培委員会が中心となって、学校緑化に取り組んだ。「鉢上げ隊」や「花植え隊」をその都度募集し、栽培委員会の児童だけでなく全校の児童が自主的に学校緑化に向けて行動することができた。校内の花壇にパンジーやひまわり、葉ボタンなどを植え、心を豊かにする活動を行うことがで



きた。

③人権教育の推進

人権月間の取組として、人権についてのビデオ視聴を各クラスで行った。人権主任が選んできたビデオ教材を各クラスで視聴し、内容について話し合ったり感想を書いたりするなどして、児童が人権について考える機会とした。さらに、12月の校長講話を「いじめゼロ心温まる男衾小学校に！」とした。児童がいじめについて深く考えさせるとともに、いじめは絶対にしてはいけないという意識をもたせることができた。

④ありがとうの木の取組

認め合える人間関係づくりをねらいとして、各クラスが感謝の気持ちを伝える掲示としてありがとうの木に取り組んだ。友達のよいところに気づき認め合う雰囲気づくりをすることができた。



⑤生徒指導通信「おぶスマイル」の発行

児童や保護者に生徒指導についての意識を高めてもらうため、生徒指導通信「おぶスマイル」を月1回発行した。生徒指導委員会や校内の生徒指導上の課題について話題となったことを中心に内容を掲載し、どのような児童に育成していきたいかという学校の考え方を保護者に伝えるためのツールとした。

⑥Hyper QUテストの実施

全校児童を対象にHyper QUテストを実施した。また、Hyper QUテストやその結果についての研修会をもち、学級集団の様子や児童への指導について話し合った。

(5) まとめ（研究の成果と課題 等）

ア 成果

●授業アンケートより

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校(%)
1) 友達が自分の考えをよく聴いてくれていると思いますか。	第1回	73.2	88.9	93.4	73.1	88.9	88.9	84.6
	第2回	83.1	85.7	93.4	77.6	88.9	87.5	86.2
2) 分からない時にすぐに友達に聞けますか。	第1回	80.3	68.3	67.1	67.2	83.3	90.3	76.2
	第2回	81.7	73.0	67.1	71.6	84.7	88.9	77.9
3) 友達の意見のいい所を見つけようとしていますか。	第1回	78.9	92.1	92.1	83.6	86.1	88.9	86.9
	第2回	88.7	95.2	93.4	86.6	84.7	90.3	89.8

★授業アンケートの結果の考察

- ・全校で「はい」と答えた児童数が増加しているため、自信をもって学習に望める意欲が高まっていると考えられる。
- ・1) や3) の項目が増加していることから、友だちの意見や発表を大切にしようとする心情が育成されたと考えられる。
- ・2) の項目が増加していることから、友だちを信頼し、安心して学習に臨める環境が

できている。

●いじめ認知件数より

生徒指導報告いじめ認知件数より

平成28年度・・・71件

平成29年度・・・30件（12月現在）

- ・いじめ認知件数が、昨年度同時期の件数よりも半数以下となった。友だちを大切に
にする心情が育成されたことで、友だちに対して嫌なことをしたり言ったりする
ことが少なくなってきたと考えられる。

イ 課題

- ・授業アンケートの結果を見ると、項目によっては減少している学年も見られる。
なぜ減少したのか原因を探り、今後の指導に活かしていきたい。
- ・小グループでの発表はよくできるようになってきているが、クラス全体での発表
があまり見られていない。クラス全体の発表もたくさんできる児童の育成に取り
組んでいきたい。
- ・道徳の時間を公開したり道徳だよりを発行したりするなど、家庭、地域に向けて
の発信を行っているが、授業の参観や感想などがまだまだ少ない状況にある。家
庭、地域に向けて、より一層の発信・啓発に努めていきたい。

(6) いじめ防止プログラムについて

ア 実施日時 平成29年10月19日（木）

イ 講師名 橋本佐紀子先生

ウ いじめ防止プログラム実施当日の計画

日時	内容	対象及び参加人数（保護者、児童生徒、教職員、地域の方など）
10月19日 （木）	○講演会（90分） ○教員研修（50分）	4、5、6年生児童207名 教職員11名

エ いじめ防止プログラム実施の成果について

- ・ワークショップ型の講演会を行っていただき、子供たちは積極的にいじめについ
て考えることができた。
- ・講演会後のアンケートでは、参加児童の96.6%が「講演会の内容は今後の生
活に生かせそうですか」の項目に「生かせる」と答えた。
- ・児童の感想の中に、「先生に言うことはチクリではないこと、いじめやDVにつ
いて改めて学習できてよかった。」「悪口、暴力、無視、全てがいじめの原因だ
からやってはいけないと感じた。」等、いじめ撲滅に向けて前向きな意見が多く
見られた。
- ・参加した教職員からは、「普段の児童への関わり方を非常に考えさせられた。」
「権利についてのお話が分かりやすく、参考になった。」等、これからの指導に
参考となる内容が多かったという意見があった。